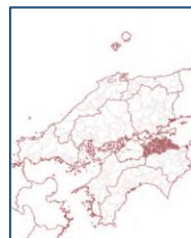
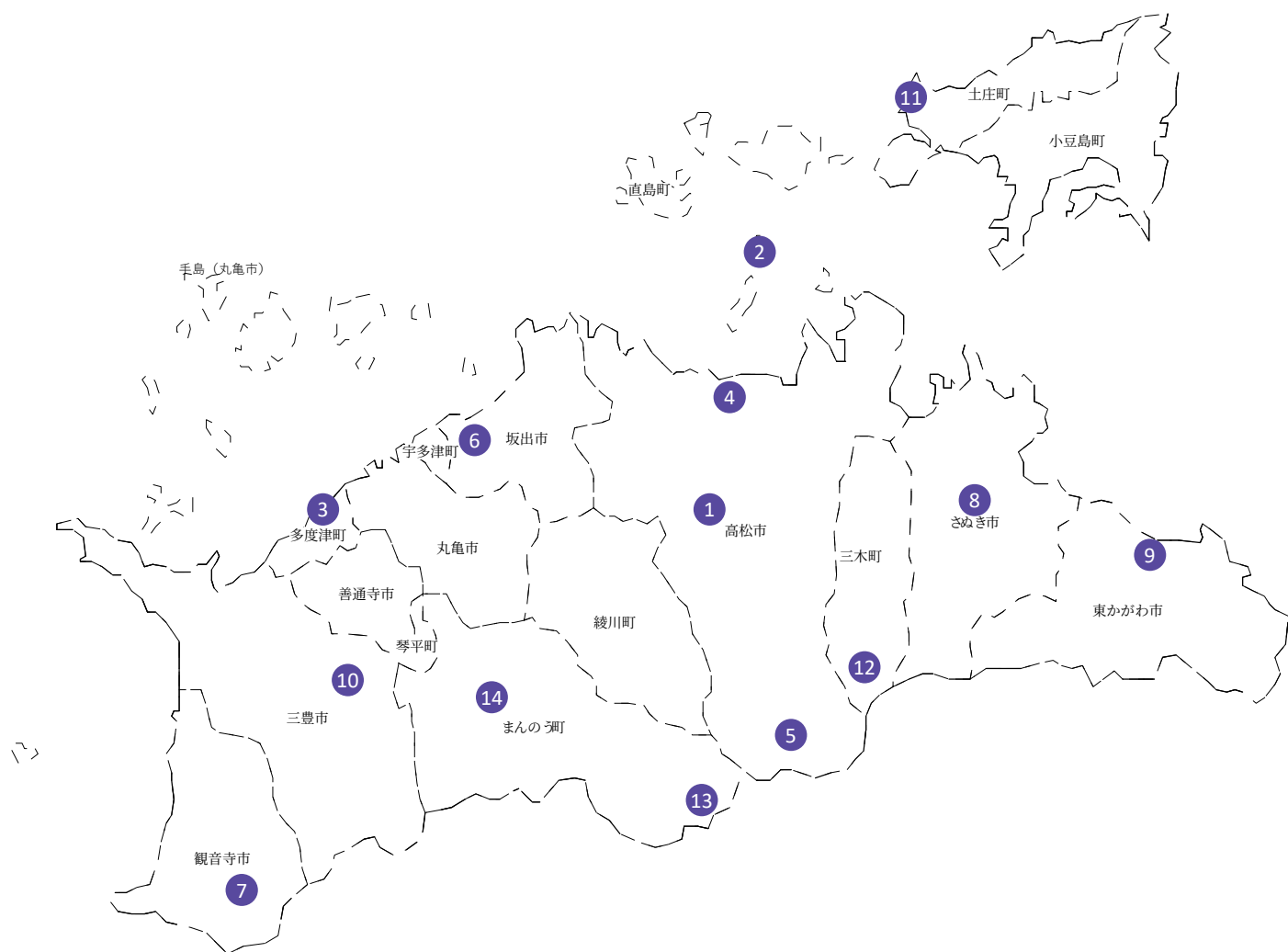


香川県

ディスカバー農山漁村（むら）の宝」第12回選定）応募団体等 一覧 香川県）

No	選定 団体等	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		団体	高松市	大野豆プロジェクト	地産地消	伝統の継承	農福連携
②		団体	高松市	香川大学OGIJIMAプロジェクトここちから	農業	学生・若者の活躍	農村環境・景観保全
③		団体	高松市	香川大学たどつまちLabo	林業	官民共創	
④	地方 奨励賞	団体	高松市	香川大学Bonsai☆Grils Project	伝統の継承	教育機関との連携	学生・若者の活躍
⑤		団体	高松市	特定非営利活動法人 奥塩江交流ボランティア協会	農業	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑥		団体	坂出市	坂出第一高等学校 食物科	地産地消	食育・教育	学生・若者の活躍
⑦		団体	観音寺市	五郷里づくりの会	伝統の継承	関係人口の創出	その他
⑧		団体	さぬき市	香川県立石田高等学校 ワンダーフォーゲル同好会	農業	棚田保全	環境保全（農林水産業・食品産業）
⑨		団体	東かがわ市	三高みんなの食堂プロジェクト（香川県立三本松高等学校、農事組合法人福栄中央）	6次産業化	教育機関との連携	食育・教育
⑩	地方 奨励賞	団体	三豊市	麻環境保全会	農業	伝統の継承	農村環境・景観保全
⑪		団体	土庄町	小豆島陽当の里伊喜末	荒廃農地対策	農村環境・景観保全	高齢者の活躍
⑫		個人	三木町	岸田 智子	6次産業化	荒廃農地対策	その他
⑬		団体	まんのう町	島々峰の原風景を守る会	6次産業化	棚田保全	荒廃農地対策
⑭		団体	まんのう町	まんのうひまわり振興協議会	農業	6次産業化	関係人口の創出

応募団体等所在市町図（香川県）

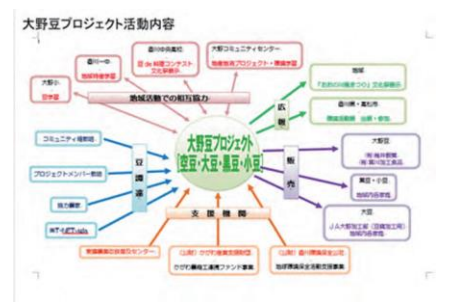


おおのまめ 大野豆プロジェクト

伝統野菜「大野豆」の復活と次世代への継承

概要

- 品種転換により消滅の危機に瀕していた伝統野菜の「大野豆」の生産復活を願う有志35名が集い休耕田を活用し、大野豆復活プロジェクトとしてスタート。
- 伝統野菜「大野豆」を主に多種の豆を栽培し、生産や販売を通じた地域活性化とデジタル技術を活かした「大野豆」復活と次世代への継承活動のPR。
- プロジェクトメンバーに地域農業団体も加わり、当初メンバーの高齢化を補い、活動の活性化を図る。



各支援機関・協力農家・学校と連携した活動



女性会による「押し抜き寿司」料理教室



地域イベントにおける「大野豆」販売

〒761-1701 高松市香川町大野1329-1
087-886-1960

関連情報はこちら ▶



かがわだいがく おぎじま 香川大学OGIJIMAプロジェクトここちから

名産品落花生で男木島を元気に！

概要

- 男木島は、担い手不足により耕作放棄地が数多く見られる。そこで耕作放棄地を活用してかつて島の名産品だった落花生を栽培することにより、島の伝統や食文化を継承するとともに、耕作放棄地の削減と景観保全により島のイメージ向上を目指す。
- 収穫した落花生を用いて島民向けイベントを開催するなど事業を継続して行うことにより、島内だけでなく島外の人々への認知度の向上を目指す。



耕作放棄地の草刈り作業

成果

- 男木島の地域活性化を図るとともに島民に活動を認知してもらう機会が創出でき、耕作放棄地の解消や食文化の継承等にも寄与。
- 島民と交流することにより、お年寄りから教わった獣害対策や土壌づくりに関する知恵は、農業未経験の学生が成長する貴重な機会になった。



落花生の定植

〒760-8523 高松市幸町2-1 香川大学経済学部古川研究室

関連情報はこちら ▶



かがわだいがく 香川大学たどつまちLabo らぼ

竹あかりで多度津を盛り上げたい！

概要

- 地域住民団体や多度津町役場と連携して、歴史的建造物が立ち並ぶ旧本町筋にて竹あかりを展示することを通して、旧本町筋が重要伝統的建造物保存地区に選定されることを目指す。
- 地域住民と連携して放置竹林の竹を定期的に伐採することにより、放置竹林問題の解消に貢献。

成果

- 多度津町を舞台に3種類のまちなきリーフレットを作成し、情報の発信に寄与。さらには、重要伝統的建造物の概要や対象の建物を紹介する「重伝建マップ」を作成中。
- 地域未利用資源である放置竹林の竹を利用したワークショップの開催や作成した竹あかりを展示するイベントの企画・運営することにより、町の活性化を推進。



竹あかりワークショップの様子



竹炭実験



～たどつちの灯～の様子

〒760-8523 高松市幸町2-1 香川大学経済学部古川研究室
tadotsulabo@gmail.com

関連情報はこちら▶

地方
奨励賞

かがわだいがく 香川大学Bonsai☆Girls Project ぼんさいがーるずぷろじえくと

若者と高松盆栽を繋ぐ架け橋に！

概要

- 松盆栽の生産地として知られる香川県高松市の魅力を、女子大生が普及しようと平成24年にプロジェクトが発足。
- 「男性・お年寄り・高価」といったイメージを持たれる盆栽を、真逆のイメージの「女性・大学生・お金持ちの印象がない」といった女子大生が、苔玉づくりワークショップやフリーペーパーの作成、SNSによる情報発信で高松盆栽の魅力を若い世代や女性をターゲットとし、認知度向上を目的に活動。

成果

- 盆栽園で盆栽の作り方や育て方を教わり、自身の技術向上に努め、習得した技術を用いて、高校生等の若い世代や女性をターゲットに盆栽教室や苔玉づくりワークショップを開催し、誇るべき地場産業を女子大生の新しい視点から効果的に発信。
- おすすめ樹種紹介や盆栽関連記事を掲載したフリーペーパー「ZINE」を作成し、市内各所で配布。
- SNSを使った積極的な情報発信により、盆栽に興味のある海外の人からのフォローが増加。



情報共有ミーティング



フリーペーパー「ZINE」



盆栽教室

〒760-8523 高松市幸町2-1 香川大学経済学部古川研究室

関連情報はこちら▶



とくていひえいりかつどうほうじん おくしおのえこうりゅう

きょうかい

特定非営利活動法人 奥塩江交流ボランティア協会

スローライフを楽しみながら持続社会に貢献するボランティア隊士

概要

- 茶畑が年々衰退していく様を見て、かつては阿讃交通の要所として賑わっていた地域を再び活性化させることを目的として、平成18年に奥塩江交流ボランティア協会を設立。
- 楽しみながら地域農業に貢献する「楽農人活動」、山村に賑わいをもたらす「山なみ交流活動」を実施。

成果

- 荒廃が進んだ畑や放置茶畑を再生。「天空の畑」として蘇った畑でソバや野菜、茶を栽培し、特に茶は無農薬栽培で一番茶だけを製品化、協会ブランド(大滝山、東山)として道の駅や産直などで販売するなど観光地塩江の活性化にも貢献。
- 会員は現在約100名。奥塩江の自然・風土が好きで「スローライフを楽しみ、持続社会に貢献する」を合言葉に地域内外から集まる仲間たちが活発な活動を展開。



楽農人活動(茶畑の管理)



モモの広場で交流イベント



天空の畑でそば刈り作業

〒761-1613 高松市塩江町上西甲77 モモの広場

関連情報はこちら ▶



さかいでだいいちこうとうがっこう しょくもつか

坂出第一高等学校 食物科

高校生が伝える生きた教材

概要

- 児童・生徒たちに「食」を通じて地域への理解を深めてもらうことを目的として、地場産物を活用した献立開発や食育授業を実施してきたが、子どもたちの食育を定着させるために家庭全体で健康的な食生活に取り組む必要があることから、保護者にも対象を広げ、地域の食育推進リーダーとしての役割を担うようになった。
- 子育て世代を対象にした食育ワークショップの開催や健幸レシピを作成した。

成果

- これまでの献立開発や食育授業に加え、これまで培ってきた経験を活かし、子育て世代を対象にした食育ワークショップを開催して、親子で調理体験をすることにより、参加者の食育意識の向上を図った。
- 地元食材を使った健幸レシピを考案して冊子にまとめ、市内小・中学校のほか公共施設に配布するとともに、坂出市のHPに掲載した。



健幸レシピ考案授業の様子



みかん共撰場 施設見学



食育ワークショップ

〒762-0032 坂出市駒止町二丁目1番3号
0877-46-2157

関連情報はこちら ▶



ごとうさと かい 五郷里づくりの会

GOGO 五郷！～文化は山から降りてくる～

概要

- 平成23年に、井関・内野々・有木・海老済・田野々の5つの地域からなる五郷の活性化を目的に、「できることから活動を始めよう」と五郷里づくりの会を発足。
- 「人が輝く里山づくり」を目指して、地域資源である「五郷の棚田(つなぐ棚田遺産認定)」の保全と地域の活性化を図る活動を実施。5月5日を「五郷の日」と定め、総会&記念行事実施。
- 五郷の独自性を大切にして、伝統行事・郷土料理の継承や関係人口創出に資する取り組みを実施。



五郷里づくりの会メンバー

成果

- 五郷水車、水車小屋、吾妻屋、ピザ石窯の建設を始め、蕎麦の栽培と蕎麦打ち体験、里山歩き、三世代交流のピザ作り体験やさつま芋の栽培と親子収穫体験会など幅広い活動を実施。
- 独自性を出すため、豊稔池堰堤(国の重要文化財)等の名所を活かした「里山歩き」は現在8コースの開設、梅狩り・みかん狩り・花炭づくり体験を絡めたグリーンツーリズムの実施。また、11月29日、30日には「五郷の棚田ライトアップ」イベントを初開催した。



豊稔池の風景（ゆるぬき・雪景色）

〒769-1621 観音寺市大野原町井関696
0875-54-4489 携帯090-1324-8364（徳善）

関連情報はこちら ▶



かがわけんりついでこうとうがっこう どうこうかい 香川県立石田高等学校 ワンダーフォーゲル同好会

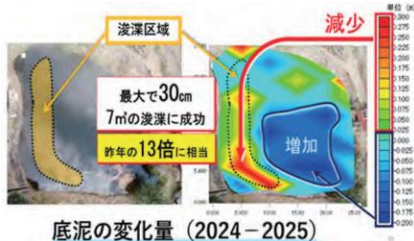
大人から教わる山仕事、僕らの青春。

概要

- 昆虫や水生生物の研究をしながら耕作放棄地だった里山を一人で耕作し、小さな生き物のために環境を整備していた卒業生が病により体力の限界と感じたことをきっかけに、高校の後輩生徒を誘い、棚田の耕作・生物調査・水源管理・下草刈り等里山保全活動を実施。
- ボランティア団体である「Gomyo倶楽部」の人たちに協力を得ながら、最新の科学技術と地域の大人たちの知恵を組み合わせ、無理のない方法で環境を守る。



サイフォンによる浚渫の様子



浚渫の成果

成果

- 五名地区の棚田での里山活動で、タガメやゲンゴロウ、カワバタモロコなどの絶滅危惧種、ユキモチソウやエビネなどの希少植物も見られ、自然の豊かさと命のつながりを実感。
- 池の水質改善と貯水量の向上を目指して底泥の浚渫を行う際、生物への影響を最小限に抑えるために、ポンプを使用せず自作のそりで回収することで、生物への影響を最小限に抑えることに。



棚田で御田植祭

〒769-2321 さぬき市寒川町石田東甲1065番地
0879-43-2530

関連情報はこちら ▶



しょうどしまひあたり さと いぎすえ

小豆島陽当の里伊喜末

高齢者から若者へ、次世代につなぐ活気あふれる農村へ

概要

- 高齢化や鳥獣被害で増加した耕作放棄地に危機感を抱いた農業者数名が、かつての活気と景観を取り戻そうと農地の再生に乗り出し、それをきっかけに活動が開始。
- 島嶼部特有の不利な耕作条件のなか、耕作放棄地の発生を防止するため、伝統野菜の生産や食品加工企業等と連携して農地を永続的に利用。
- サツマイモの「芋づるの塔」等の伝統継承、祭りや地域コミュニティ活動への積極的な参加により、島内住民全体の交流及び関係人口の増加。



地域の風物詩 芋づるの塔

成果

- 当管理作業に参加し、地域初は農業者有志で始めた活動も、現在では青年団や消防団、農業者以外にも交流と協力体制が構築。
- 島内のオリーブ生産4法人の誘致、伝統野菜の生産や地元企業と連携した新規作物の契約栽培に取り組む等再生した農地を永続的に活用することが実現。
- 「小豆島産原料100%地ビール」製造の夢を叶えるため、大麦やホップ等の生産・供給を行い製造、販売に協力することかできた。



小豆島産原料100%のビール

〒761-4131 小豆郡土庄町伊喜末116-2

きしだ ともこ
岸田 智子

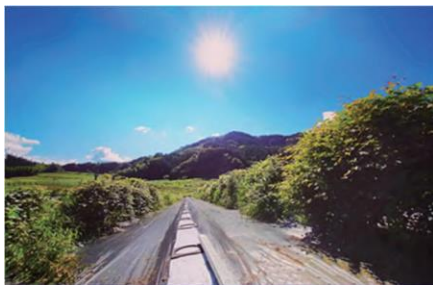
人・馬・農地をつなぐ“Restart with Legacy”

概要

- かつて地域の人たちだけでなく農耕馬や家畜の葉草として重宝されたウマブドウ（馬葡萄）に着目し、耕作放棄地を農地に戻して育てた葉草を、お茶などに加工し高付加価値化。
- ウマブドウと牧草の自然栽培を確立し、有機JAS認証を取得。地元で薬用植物専門店「葉っぱ舎」を運営。
- 育てた牧草に地域の食品残渣を加えアップサイクルする人、馬、農地の共生・循環型プロジェクトを推進。

成果

- ウマブドウ茶は全国約1,000世帯が登録するネット販売を中心に、オーガニックスーパー、デパート、空港免税店へと販路を拡大するとともに、ふるさと納税返礼品にも採択。
- ウマブドウ茶はノンカフェイン高ポリフェノールのため人気で、3ヵ月毎のリピート率は約60%。
- 馬牛用飼料は、ウマブドウと牧草に食品残渣（ビール粕、ワイン粕、柑橘皮など）を加えてアップサイクル。地域の観光牧場や乗馬施設と連携し、販売開始に向けた準備が最終段階。



荒廃農地を整備しウマブドウと牧草を栽培



リピート率の高いウマブドウ茶



ウマブドウの多色性 ギネスに挑戦予定

〒761-0612 木田郡三木町氷上1277番地6

関連情報はこちら ▶



しまがみね げんふうけい まも かい
島ヶ峰の原風景を守る会
初めて会った人達もいつか笑顔のソバづくり

概要

- 人口減少・高齢化により衰退し荒廃する農地の状況を憂いた同士が、この地の食文化や風景を「次世代に残したい」という想いで集まり、平成28年より荒廃地の開墾から始め、寒暖差を利用したソバ作りを開始。
- 開墾した農地の一部を利用して、ソバの栽培体験・そば打ち体験ができる『そば道場』を実施しており、加えて廃校跡地を利用してそばが食べられる食堂をオープン。



再生農地拡大中のソバ畑

成果

- 農地であった面影さえない荒地、狭小な道路、背丈よりも大きな草木。開墾は容易ではなく、農地として復活するのに約3年の歳月を要したが、最近では本地区に定住した元地域おこし協力隊の方や島ヶ峰の紫翠に魅了された若い人も活動に参加するようになり、活気があふれてきた。
- 約8年の歳月をかけて復活したソバ畑(約5ha)は県内外から注目を浴び、ソバ畑を一目見ようと多くの方が訪れるように。



食堂での様子・6次産業化のそば商品

〒766-0203 仲多度郡まんのう町川東2467

しんこうきょうぎかい
まんのうひまわり振興協議会
黄色い魔法のかかる町「まんのう」

概要

- 平成元年から地域で栽培されている「ひまわり」を、自治体と栽培農家が連携し「ひまわりの町まんのう」として全国に向けて発信するべく協議会を設立し、栽培部会や商品開発部会を組織化。
- ひまわり畑の景観を生かした「ひまわりまつり」の開催や「まんのうひまわりオイル」など、ひまわりを原料とした商品を開発、地域ブランドとして更なる認知度向上を図り、関係人口の創出を目指す。

成果

- 6次産業化として、ひまわりオイルをはじめドレッシング、焼酎など多数の商品を開発。また、種の搾りかすを活用した畜産農家などの協力を得て、搾りかすを活用した「まんのうひまわり牛」や肥料として活用した「ひまわり米」の生産。
- 観光振興として、日本一小さな香川県に壮大なひまわり畑が広がる景観を多くの人に楽しんでもらうことで「ひまわりと言えばまんのう町」のイメージを拡散、さまざまなブランド商品による知名度向上による流入人口増加と地域経済への刺激に寄与。



ブランド商品のひまわりオイルと石鹸



満開のひまわりと幸せの鐘



多くの来場者で賑わうひまわりまつり

〒766-0022 仲多度郡まんのう町吉野下430番地
0877-73-0122